

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473800819
法人名	医療法人 恭和会
事業所名	グループホーム グリーンヴィレッジ
所在地	横浜市都筑区茅ヶ崎東5-8-13 (電話) 8045-943-702

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5丁目76-35		
訪問調査日	平成19年7月10日	評価確定日	8月28日

## 【情報提供票より】(19年 6月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20人	常勤	10人, 非常勤 10人, 常勤換算 11, 2

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2階建ての1階～2階部分
------	-----------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	67,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円	
敷 金	有( 円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 360,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人恭和会 新横浜クリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ・立地的には都筑区郊外で畑や樹木に囲まれ、静かでのんびりした雰囲気があり、生活にも散歩にも環境は良好である。
- ・当施設の母体は医療法人で、その傘下に診療所及び老人保健施設(立地的には当施設に隣接)があり、利用者の医療的対応面は好条件下にある。
- ・職員は、利用者が主体性をもって、生き甲斐のある自立した生活ができるよう、明るく、笑顔で共に生活する姿勢でケアしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	<p>前は開設9ヶ月目の受審で、その折りの主要課題は次の通り改善されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流と相互理解について努力し、地域から信頼される施設になっている。</li> <li>・運営理念を職員に周知徹底すると共に、その理念をもって地域啓発に努力した。</li> <li>・不足していたマニュアルを整備し、介護サービスの質の向上と均質化が行われている。</li> </ul>
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の自己評価作成にあたっては、その意義と目的を全職員に話し、各フロア毎にフロア一長が中心になって職員の意見をまとめ作成した。</li> <li>・前回の評価結果を全職員に周知徹底し、改善事項には全員で取り組んだ。評価結果の写しを全家族に配布し、また玄関ホールに掲示して自由に閲覧できるようにした。</li> </ul>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	<p>目下、発足に向けて構成メンバーの選定や運営方法の立案など準備に取り組んでいる。</p>
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族とのコミュニケーションは、毎月家族通信(利用者個人の生活の様子)を請求書と共に発送して生活状況を知らせ、家族の来訪時には家族との対話を積極的に行い、家族が自由に何でも話せる雰囲気作りを心掛けている。</li> <li>・家族から出された意見や要望事項は記録し、職員ミーティングやフロア会議で話し合っ対応している。</li> </ul>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入し、地域の行事(芋掘りなど)には積極的に参加し、野菜も地元農家から購入するなど地域との交流を重視している。</li> <li>・日々の散歩の時には、出会う地域の方々や挨拶を交わし、しばしの交流を図っている。</li> <li>・隣接老健施設の夏祭りに参加したり、地域の子どもサークルと交流し、歌や手芸を一緒にやっている。</li> </ul>

I. 理念に基づく運営

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・グループホームが地域の中で暮らす家庭であることの思いを大切に、利用者の自立を支援し生活の質を重視している。 ・具体的には、スケジュールを組まない自由な生活をする事、及び残存生活能力を引き出すことにより可能な限り普通の生活を営むことを理念として掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は玄関・事務室など職員の目に付く所に掲示し、毎月のフロアー会議でサービス現場での具現化について話し合っている。 ・職員が利用者に笑顔で接しているか、利用者が喜びと生き甲斐を感じた生活をしているかを日々振り返りチェックしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入し、回覧で知らされる地域行事(芋掘り、獅子舞など)には積極的に参加し、野菜も地元農家から購入するなど地域との交流を重視している。 ・日々の散歩の時には、地域の方々と挨拶を交わしている。 ・隣接老健施設の夏祭りに参加したり、地域の子供サークルと歌や手芸で交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は各フロアー毎に全スタッフが関わり、それをフロアー長がまとめた。 ・前年度の評価結果の要改善事項については全職員で取り組んできた。また、評価結果はその写しを全家族に配布し、また、玄関ホールに掲示して来訪者が閲覧できるようにしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・まだ発足していない。現在発足に向けて、構成メンバーの選定、運営方法の立案など準備に取り組んでいる。	○	・早い時期に発足することを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・都筑区及び横浜市との連携を深めるため、書類の提出は郵送でなく持参し、情報交換の機会を多くすることを心がけている。 ・また、利用者の受け入れにあたっては市・区との協力関係を重視し、生活保護者も受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月、家族通信を請求書と共に郵送し、利用者の様子を知らせている。 ・多くの家族が気楽に来訪するので、来訪時に生活状況などを報告し、家族と意見交換をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族との対話を重視し、来訪時や電話のときを利用して、家族が自由に何でも話せる雰囲気作り心掛けています。 ・そこで話された要望を記録し、職員ミーティングやフロアー会議で話し合っ対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員異動については1Fと2F間の異動が主で、1Fと2Fは合同でイベントを行うなど交流もあり、職員異動による不安はない。 ・ただし、退職等による新規採用時は利用者との対話を出来るだけ多くすることを心掛けるなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員研修については、内部的にはカンファレンス時を利用して、その中で利用者一人ひとりのケアのあり方を中心に行っている。 ・外部研修は、職員に研修情報を提供し、自主的に参加するようにしている。なお、研修終了後は職員会議などで報告し、研修内容を全職員が学ぶことができるようにしている。	○	・研修参加を奨励するために費用を予算化し支援することの検討を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・神奈川県グループホーム協会に所属、同協会が行う研修に参加し、他のグループホームの状況なども学ぶ機会を設けている。 ・他のグループホームとのグループホーム相互間の交流については、考えてはいるがまだ実施していない。	○	・他のグループホームとの交流研修の実現を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前に職員が訪問し、在宅での生活状況を詳しくお聞きして、また本人にも面接した上で、入所後のケアのあり方を家族と話し合っている。 ・事前見学には利用者本人が来ることはまれで、家族が来所し、ケア方針などを理解した上で入所を決めている。 ・入所後は、利用者本人のペースを尊重し、徐々に生活になじむよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・過去の生活歴をもとに、調理・後かたづけ、洗濯物たたみなど、利用者各自の意思を尊重してお願いしている。 ・一緒に散歩したり、趣味をお手伝いしたりする中で、また上記の家事の仕事を通して、常に「人生の先輩から教えていただく」姿勢を持って対応している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者一人ひとりとの日常会話や日頃の態度から、何をしたいのか、何を欲しているのかを読みと取ることに職員間で話し合っており、利用者一人ひとりの意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・家族とのコミュニケーションを重視し、家族の意見・要望については把握に努めている。 ・また、日常的な介護記録・申し送り事項を中心に、利用者一人ひとりの状況について、職員間で情報の共有化に努めている。 ・以上に基づき、利用者の主体性ある生活を重視した介護計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画の見直しは、原則的には6ヶ月に1回としているが、必要に応じて随時行っている。 ・見直しの都度、カンファレンスで職員間で十分話し合いを行い、その上で家族に連絡し、意見や要望を聞いて必要があれば修正を加えて作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通院は家族が付き添うことを原則としているが、要望により柔軟に対応し職員が代行(有料)している。</li> <li>・ 地域の方からの電話で、グループホームや認知症についての質問には丁寧に対応している。</li> <li>・ 訪問理容や訪問鍼灸治療など利用者の利便性を配慮した対応をしている。</li> </ul>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母体の医療法人の診療所の医師が月に2回往診して、利用者全員の健康を管理している(健康診断記録はファイルされている)。また必要に応じて家族が往診に立ち会い医師との信頼関係を築いている。</li> <li>・ 上記診察以外に、利用者がかかりつけ医の継続的な受診は、家族の希望に応じ対応している。</li> </ul>		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現段階では終末期医療を受け入れる体制が整っていないため、契約時に本人や家族に施設でのケアの限界を説明し了承を得ている。</li> <li>・ 日常の健康管理や急変時には、協力医や隣接する老健の看護師に協力を求めて、昼夜間を問わず対応する体制ができています。</li> </ul>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横浜市から提供を受けた「個人情報の保護に関する法律の概要」を施設内に掲示し、また職員に配布し周知徹底を図っている。</li> <li>・ 重要事項説明書に個人情報保護を明記し本人・家族に説明している。個人情報に関する書類は全て施錠管理保管している。</li> </ul>		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者一人ひとりが、思い思いに主体性をもった楽しい生活を過ごすように、日々のスケジュール表には食事とおやつ時間しか記載していない。</li> <li>・ 従って、一人ひとりのペースに合わせて、植木の水遣り、調理や配膳、後片づけ、手芸、絵手紙などの支援を行っている。</li> <li>・ 夜、眠りにつけず映画を見たいという利用者には、DVDやお茶などを提供している。</li> </ul>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・メニューや食材は専門業者に依頼しているが、行事の際にお寿司を買ってきたり、近隣農家が売っている野菜を散歩途中に購入して調理するなど工夫している。 ・調査当日は調理や配膳、食器洗いまで一連して利用者と協力して行い、職員が利用者と同じテーブルで和やかに食事をしていた。厨房には多人数で調理や盛り付けができるように作業テーブルが置かれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴の曜日や時間帯は固定化しておらず、本人の希望を優先し、湯温度や入浴時間も希望にあわせるなど、入浴を楽しんでもらうよう柔軟に対応している。 ・同性介助を希望する方には同性で対応している。 ・入浴が好きでない方へは、言葉かけや時間帯など工夫しながら根気よく入浴を勧めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・掃除・洗濯・調理・配膳・食器洗い・裁縫など、利用者一人ひとりが得意な分野で能力を発揮してもらえるよう支援し、終わったあとには感謝の気持ちを伝えている。 ・歌の発表、雑巾を縫ってもらうこと、「週のスケジュール」や「お知らせ」の製作など特技を活かせる場面も作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気がよければ日常的に散歩に行き、地域の方々の会話を楽しんだり、四季の変化を感じてもらっている。 ・外出が困難な方には少しでも外気に触れ気分転換できるように、中庭や外庭での日光浴や外気浴を楽しんでもらっている。 ・初詣やお花見を楽しんでいる写真が掲示されていた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は昼間は施錠していない。建物が道路に面しているため安全面から家族の同意を得て各フロアーの出入口を施錠している。 ・1階は中庭を通して外にすることが可能で、職員が常に見守っている。 ・居室の扉には鍵をつけていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年2回の防災訓練を計画し、前回は消防署の協力を得て避難誘導を行い、次回は夜間を想定した訓練を計画している。</li> <li>・ 誘導灯、自動火災報知器、避難はしご、ヘルメットなど整備してある。</li> <li>・ 現在、地域の町会と「消防応援協力に関する覚書」を締結する準備を進めている。</li> </ul>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食材は原則として外部業者に委託し管理栄養士の作成した献立表と共に届き、調理は希望する利用者と一緒にやっているが、利用者の好みを聞き、独自メニューも取り入れている。 ・食事、水分摂取量は個々に記録し、特に配慮が必要な方については詳細にチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間は天窓から光が射し込んで明るく、職員が毎朝窓を開けて新鮮な空気を取り込んでいる。 ・季節の花を活け、利用者の作った絵手紙を飾り、見やすい位置に時計やカレンダーを掛け、全体的に落ち着いた家庭的雰囲気となっている。 ・テーブルや椅子の配置も、利用者同士の歓談もでき、また一人の時間も楽しめるように工夫した配置となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居案内書に馴染みの家具などを持ち込み好きな部屋作りができると明記されている。 ・寝具・家具・衣類・装飾品・写真・人形・仏壇・表彰状など馴染みのものが持ち込まれ、個々の好みに応じ心地よく過ごせる居室となっている。		